

# 高次脳機能障害者実態調査

## 報 告 書

平成 20 年 3 月

東京都高次脳機能障害者実態調査検討委員会

# はじめに

高次脳機能障害とは、病気や交通事故など様々な原因で、脳が部分的に損傷を受けたために生ずる、言語や記憶などの知的機能の障害をいいます。新しいことが覚えられない、注意力や集中力の低下、感情や行動の抑制がきかなくなるなどの精神・心理的症状が出現し、周囲の状況にあった適切な行動が選べなくなり、日常生活や社会生活に支障をきたすことがあります。また、外見からでは分かりにくいいため、周囲の理解が得られにくいといわれている障害です。

東京都は、こうした高次脳機能障害者の実数及び生活状況等を把握するための実態調査を実施するために、平成 19 年 10 月、東京都高次脳機能障害者実態調査検討委員会を設置しました。そして、本検討委員会において、平成 20 年 1 月、都内医療機関調査及び本人調査の 2 種類のアンケート調査を実施しました。

医療機関調査では、通院・入院・退院調査を行い、医療機関を利用している高次脳機能障害者の抱える様々な障害や、入院時の状況、退院後の行き先などを把握し、退院調査の結果を基に、都内の高次脳機能障害者の発生数及び総数の推計をしました。一方、本人調査においては、高次脳機能障害者の生活実態や公的支援の受給状況等の把握を行いました。

なお、本調査における「高次脳機能障害」とは、厚生労働省の診断基準に基づき、「脳の器質的病変の原因となる事故による受傷や疾病の発症の事実が確認されている」ととし、その主たる内容は、東京都が作成した医療スタッフ向けの高次脳機能障害診断のためのマニュアル及び高次脳機能障害支援ハンドブックに準拠し、注意障害、失語症、記憶障害、遂行機能障害、失行症、失認症、半側空間無視、半側身体失認、地誌的障害、行動と感情の障害としました。また、対象者として、前述の診断基準に基づき、「先天性疾患、周産期における脳損傷、発達障害、進行性疾患」を原因とする者は除外いたしました。

本報告書を東京都に報告することができましたのは、短期間の調査にもかかわらず、多くの医療機関の方々、御本人・家族の方々、関係機関の方々の御協力により実施できたものであり、ここに改めて感謝申し上げます。

この報告書が、今後、東京都の高次脳機能障害者支援施策を進めていくための基礎資料として活用されることを期待します。

平成 20 年 3 月

東京都高次脳機能障害者実態調査検討委員会

会 長 渡 邊 修

# 目 次

はじめに

## 第1章 調査の概要

1. 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 調査の対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
3. 調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
4. 調査の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

## 第2章 医療機関調査

1. 通院患者調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2. 入院患者調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
3. 退院患者調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

## 第3章 高次脳機能障害者数の推計

1. 高次脳機能障害者の発生数の推計・・・・・・・・ 29
2. 高次脳機能障害者数の推計・・・・・・・・・・・・ 32
3. 高次脳機能障害者数の年齢分布の推計・・・・ 35

## 第4章 本人調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

## 第5章 実態調査のまとめ・・・・・・・・・・・・ 61

## 第6章 資料編

1. 集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
2. 調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 103
3. 東京都高次脳機能障害者実態調査  
検討委員会設置要綱・・・・・・・・・・・・ 122

# 第1章 調査の概要

## 1. 調査の目的

高次脳機能障害者の実数及び生活状況についての実態調査を実施し、東京都における今後の施策展開に資するための基礎資料とする。

### (1) 医療機関調査

#### ① 通院患者調査・入院患者調査

- ・ 医療機関を利用している高次脳機能障害者の状況を把握する。また、精神科病床に入院している高次脳機能障害者の実態を明らかにする。

#### ② 退院患者調査

- ・ 高次脳機能障害者の発生数と都内の高次脳機能障害者数を把握する。
- ・ 入院時の状況、後遺症の状況（身体機能障害・脳機能障害・精神機能障害）、退院後の施設等の行き先を把握する。

### (2) 本人調査

- ・ 急性期を過ぎた高次脳機能障害者の生活実態を把握する。
- ・ 公的支援の受給状況等について把握する。

## 2. 調査の対象

医療機関調査及び本人調査の2種類のアンケート調査を実施した。

### (1) 医療機関調査

#### ① 通院患者調査

- ・ 都内全病院（651病院）
- ・ 診療所（287診療所）  
診療所の選定にあたっては、世田谷区・杉並区・八王子市・町田市のうち「脳神経外科」、「リハビリテーション科」、「神経内科」、「精神科」（内科を含む）の診療科目を標榜している診療所を対象とした。

#### ② 入院患者調査

- ・ 都内全病院のうち精神科病床を有する病院（113病院）

#### ③ 退院患者調査

- ・ 都内全病院（651病院）

### (2) 本人調査

高次脳機能障害者〈医療機関調査対象病院及び診療所全てに1部ずつ配布〉。  
(配布数：938人の家族)

### 3. 調査方法

#### (1) 医療機関調査

調査対象病院及び診療所に対して、調査用紙と資料を郵送配布し、回答は原則として主治医に依頼し、郵送にて回収を行った。

##### ① 調査票の発送・回収

・ 発送：平成19年12月18日      回収：平成20年1月28日

##### ② 調査期間

- ・ 通院患者調査：平成20年1月15日～21日の1週間
- ・ 入院患者調査：平成20年1月21日の1日
- ・ 退院患者調査：平成20年1月7日～20日の2週間

#### (2) 本人調査

調査対象医療機関を通じて資料を配布し、回答は原則として御家族に依頼して、郵送にて回収を行った。

##### ① 調査票の発送・回収

・ 発送：平成19年12月18日      回収：平成20年1月21日

### 4. 調査の実施状況

#### (1) 医療機関調査

##### ① 都内全病院

発送病院数	回収病院数	回収率	種別	回収票数
651	419	64.4%	病院とりまとめ票	419
			通院調査票	827
			入院調査票	81
			退院調査票	206

##### ② 診療所

発送診療所数	回収診療所数	回収率	種別	回収票数
287	194	67.6%	診療所とりまとめ票	194
			通院調査票	72

#### (2) 本人調査

協力依頼数：938人   協力者数：198人   協力回答率21.1%

## 第2章 医療機関調査

この章では、東京都内に在住しかつ東京都内の病院に通院及び入院している、高次脳機能障害者の性別や年齢分布がどのような状況にあるか把握し、また、対象者の高次脳機能障害に至った原因疾患や現在抱えている障害等を把握する。

### 1. 通院患者調査

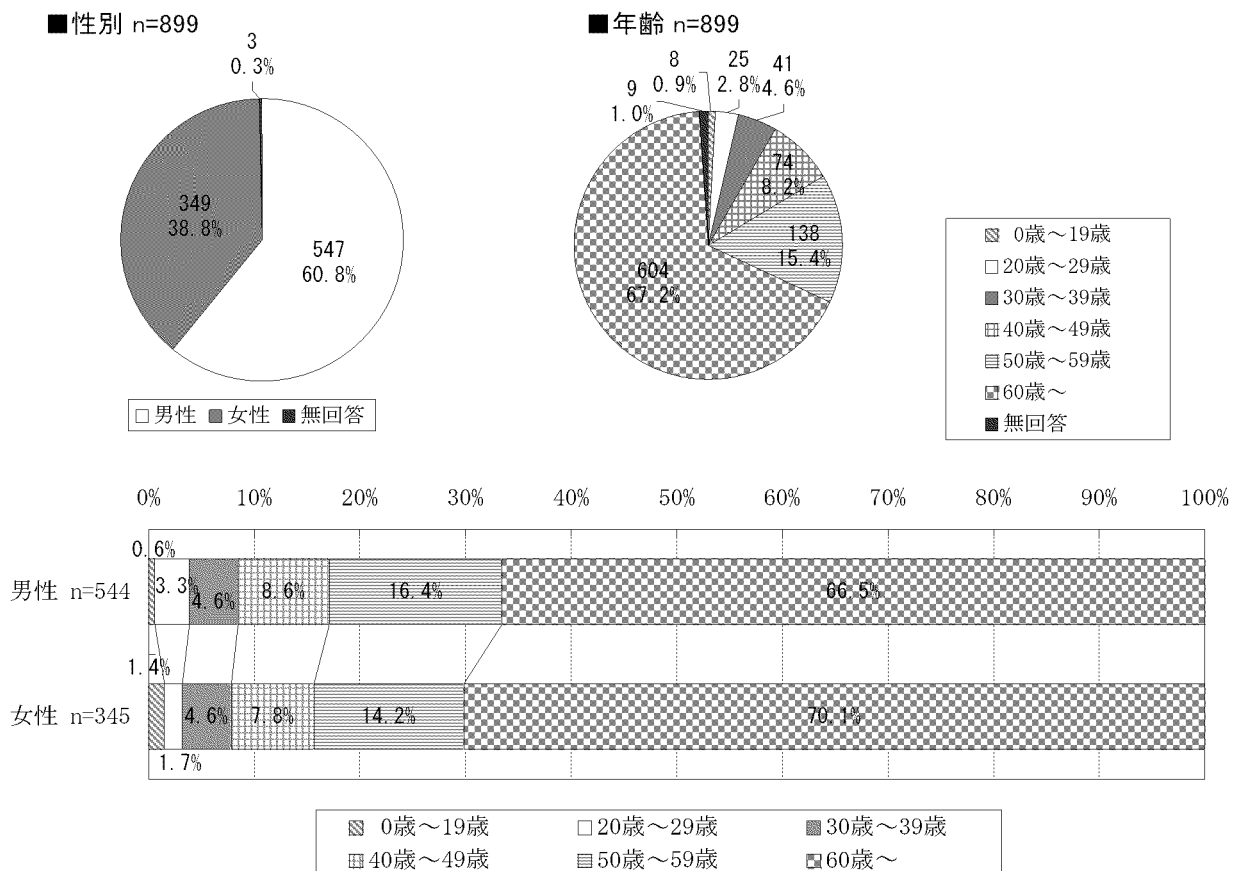
#### (1) 回答状況について 問1

調査票の回収は、938箇所（病院651、診療所287）の医療機関に協力依頼をし、116箇所（病院92、診療所24）、899件（病院827、診療所72）の回答を得た。

#### (2) 高次脳機能障害者について

##### 1) 性別と年齢 問2、問3

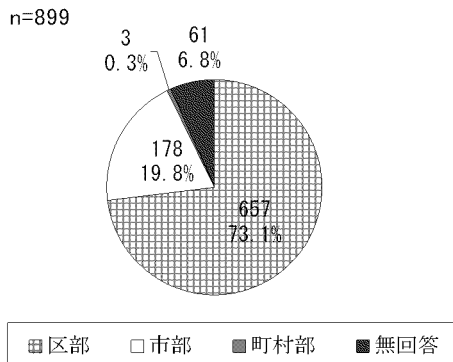
性別は男性が547人（60.8%）、女性が349人（38.8%）であり男性の方が多かった。年齢別にみると60歳以上が604人（67.2%）で多く、男女別にみても同様であった。また、平均年齢は64.2歳であった。



無回答:10

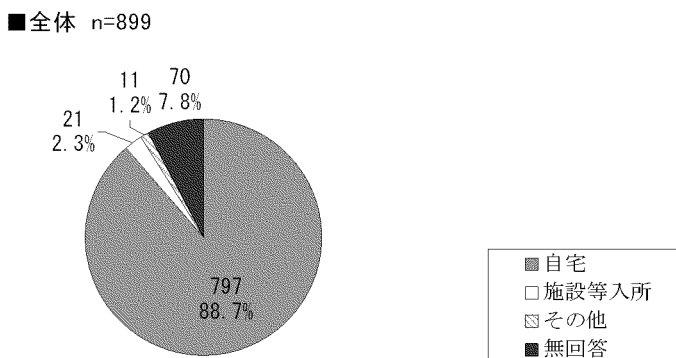
## 2) 現住所 問4

回答者を地域別にみると、区部が一番多く657人（73.1%）であった。市部は178人（19.8%）で、町村部は3人（0.3%）であった。

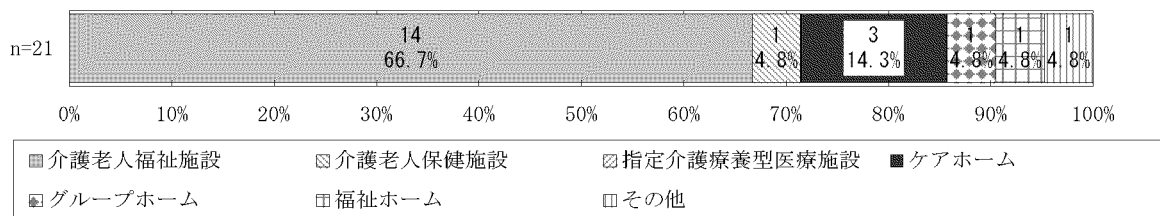


## 3) 現在の居所 問5

現在の居所は、自宅が797人（88.7%）であり約9割を占めた。また、施設等入所は21人（2.3%）、その他は11人（1.2%）であった。

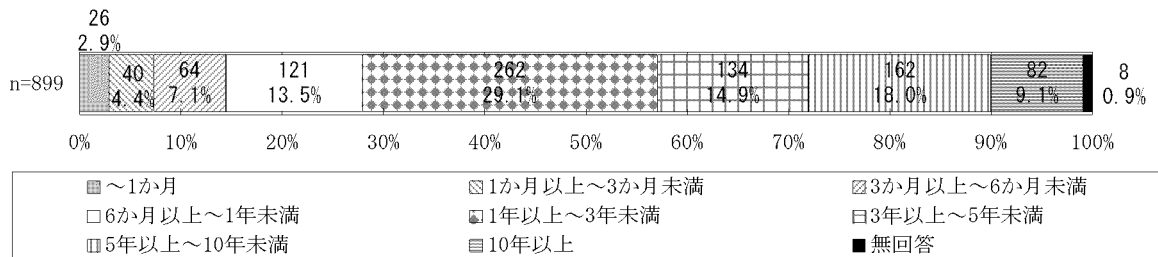


### ■施設内訳



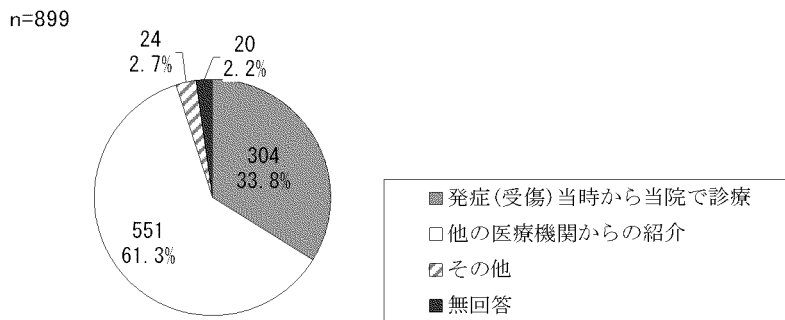
4) 通院期間 問6

通院期間は、1年以上～3年未満が262人（29.1%）で一番多く、次いで5年以上～10年未満が162人（18.0%）であった。



5) 来院経路 問7

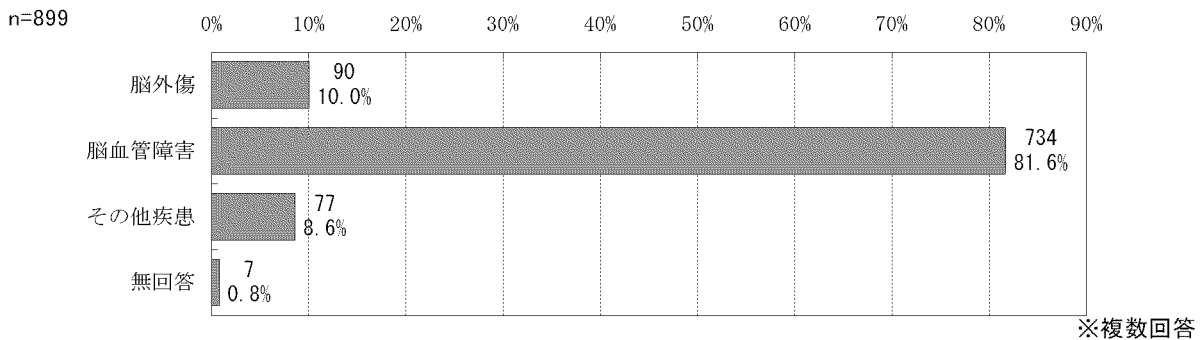
来院経路は、他の医療機関からの紹介が551人（61.3%）で一番多く、次いで発症（受傷）当時から当院で診療が304人（33.8%）であった。



6) 高次脳機能障害の原因疾患 問8、問9

①高次脳機能障害の原因疾患

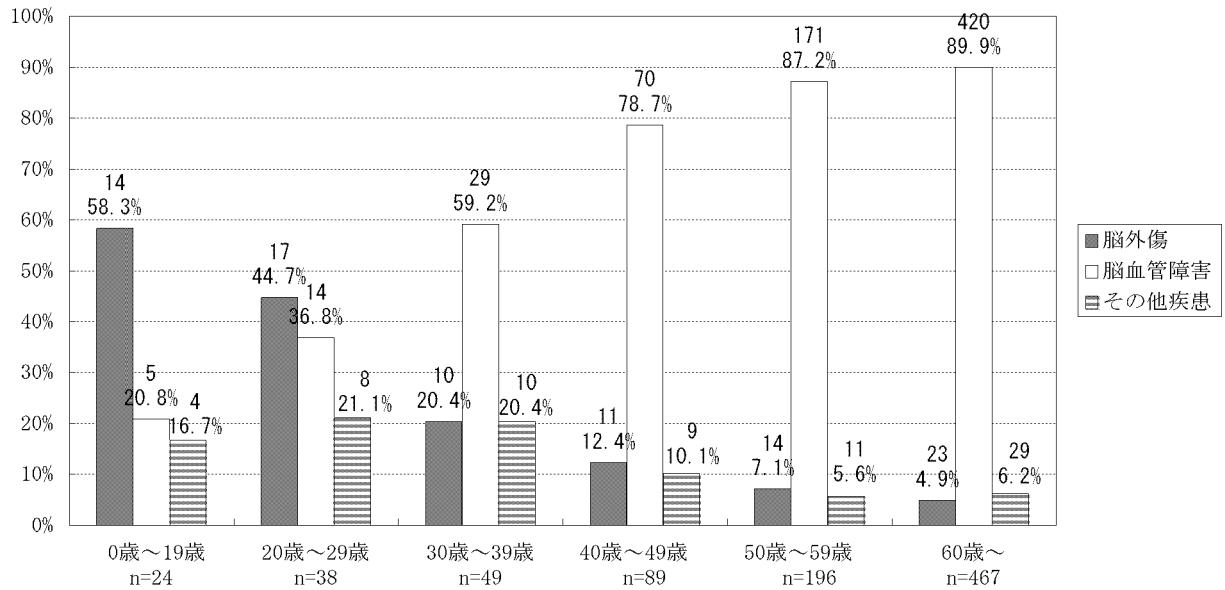
高次脳機能障害となった原因疾患は、脳外傷が90人（10.0%）、脳血管障害が734人（81.6%）、その他疾患が77人（8.6%）であり、脳血管障害が一番多かった。





## ②年齢別の原因疾患

高次脳機能障害となった原因疾患を年齢別にみると、29歳以下は脳外傷が多く、30歳以上については脳血管障害が多かった。また、平均発症（受傷）年齢は59.2歳であった。

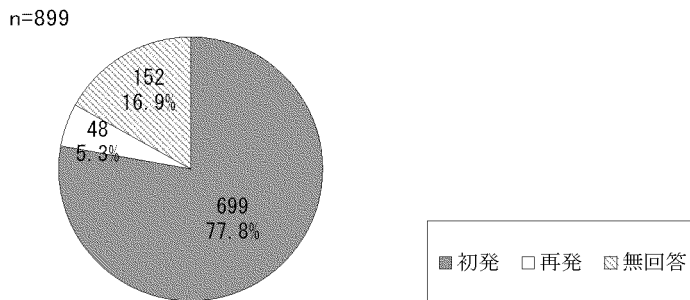


※原因疾患が複数の場合は、それぞれに人数をカウントしている。

※複数回答

## ③初発・再発

高次脳機能障害に至った原因である脳損傷の発症（受傷）は、初発が699人（77.8%）、再発が48人（5.3%）であった。

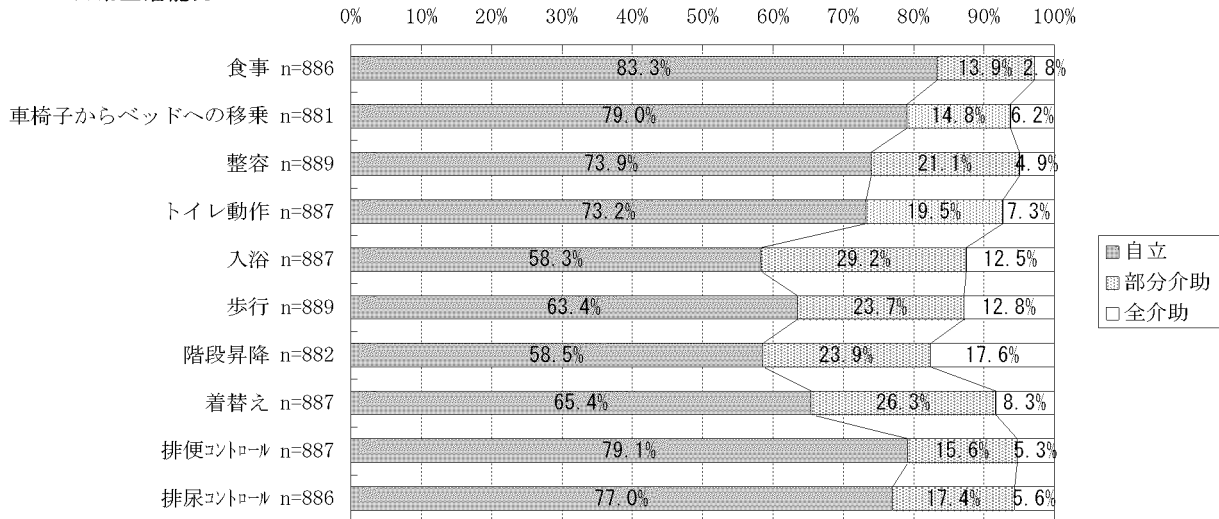


7) 現在の状態 問10

①日常生活能力

日常生活能力は、下記の全ての項目において自立が半数以上を占めた。また、バーセルインデックスは0～55点が167人（19.4%）、60点～75点が98人（11.4%）、80点～100点が597人（69.3%）であった。

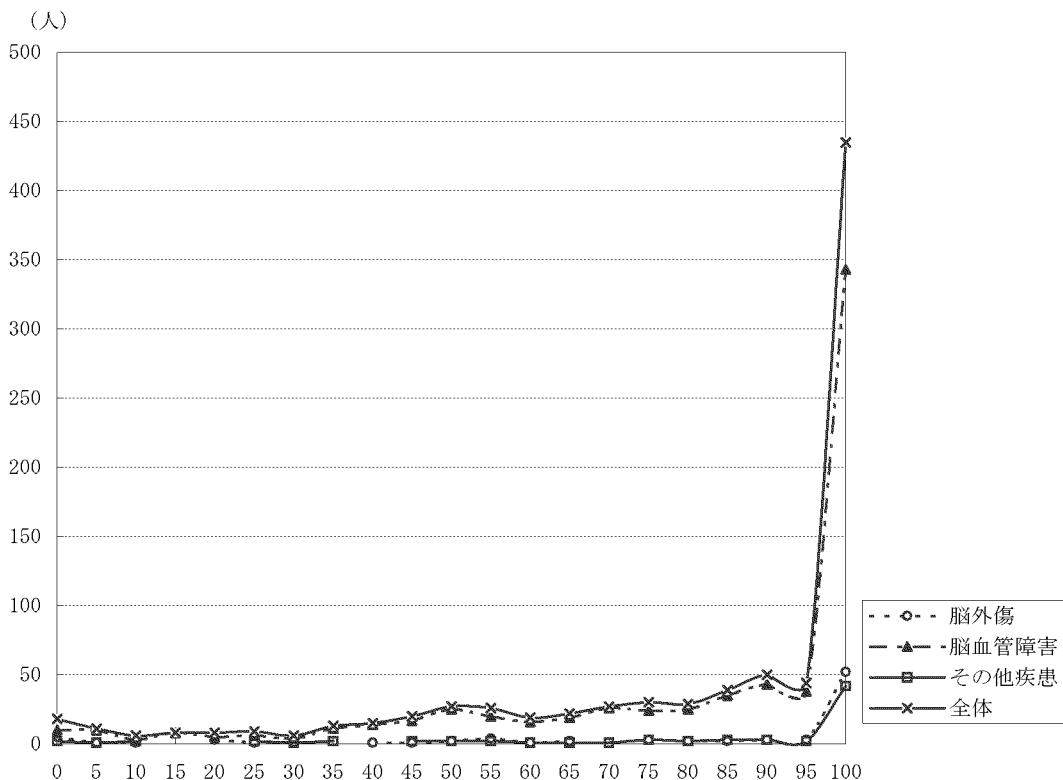
■日常生活能力



■バーセルインデックス(BI)

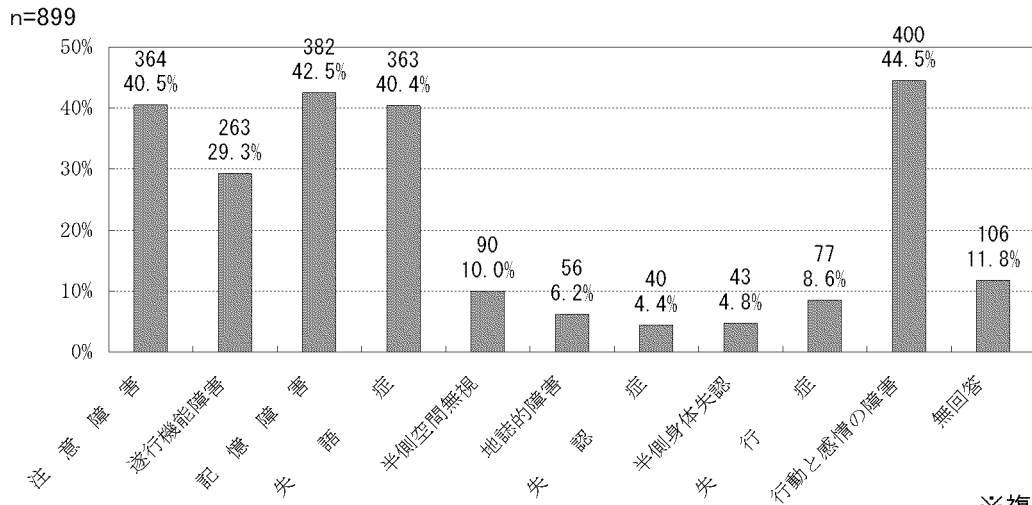
バーセル・インデックス: 食事や整容、入浴動作、歩行などの日常生活動作10項目について、それぞれ可能な能力を点数化し、全部、自立可能なら100点、全部が不可能なら0点になるように重み付けがされている評価尺度である。

n=862(日常生活の全ての項目にチェックが入っている方のみを対象)



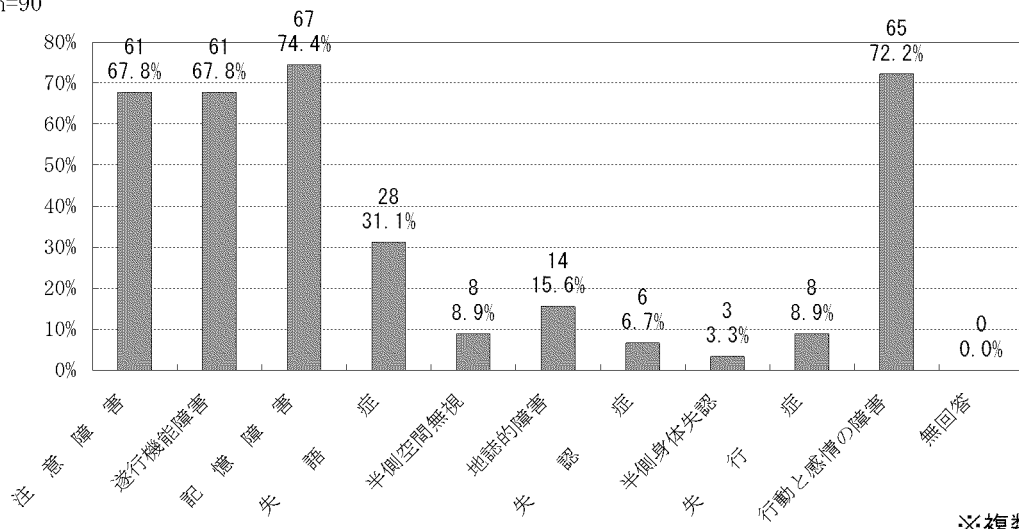
## ②高次脳機能障害

高次脳機能障害の内容として、行動と感情の障害が400人（44.5%）で一番多く、次いで記憶障害が382人（42.5%）、注意障害364人（40.5%）、失語症363人（40.4%）であった。

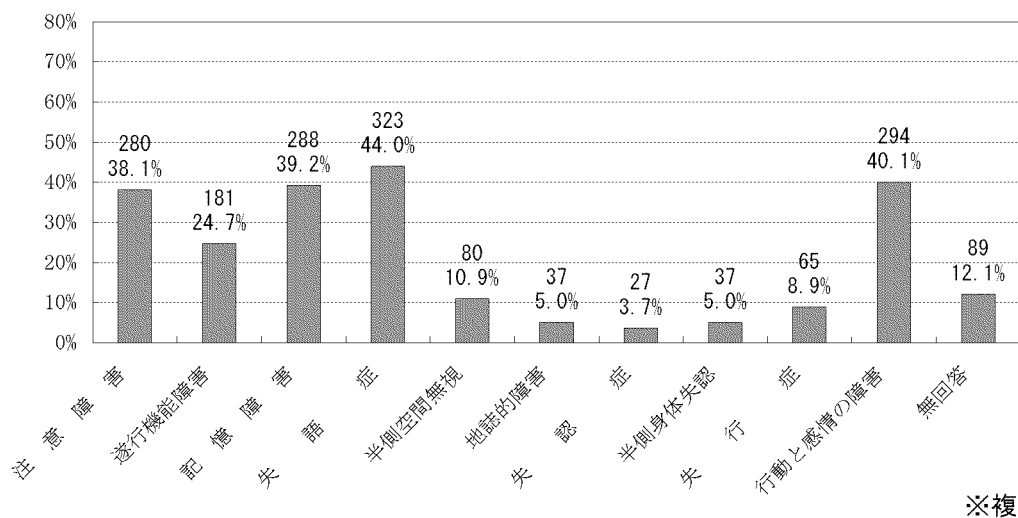


また、発症（受傷）の原因疾患別に各障害を比較すると、脳外傷では記憶障害、次いで行動と感情の障害、脳血管障害では失語症、次いで行動と感情の障害、その他疾患では行動と感情の障害、次いで記憶障害が多かった。

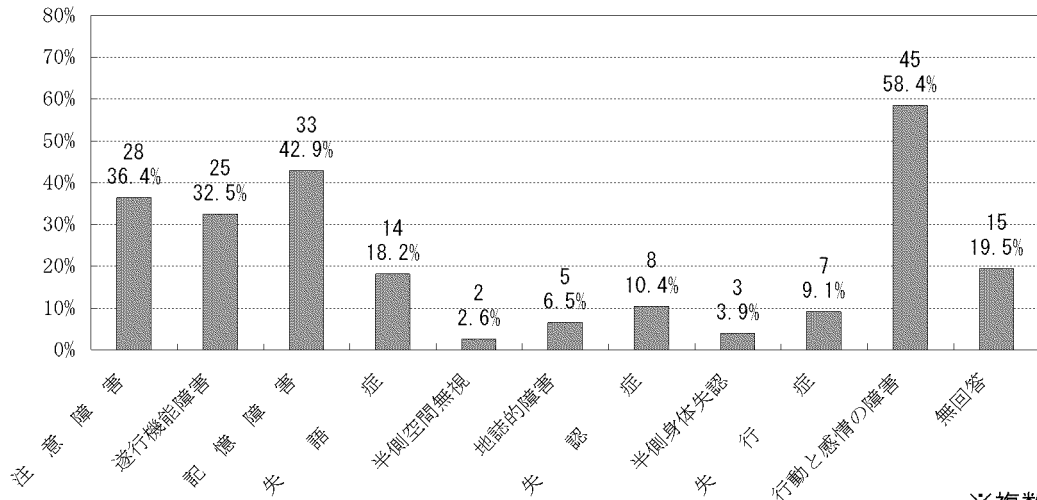
a. 脳外傷 n=90



b. 脳血管障害 n=734



c. その他疾患 n=77

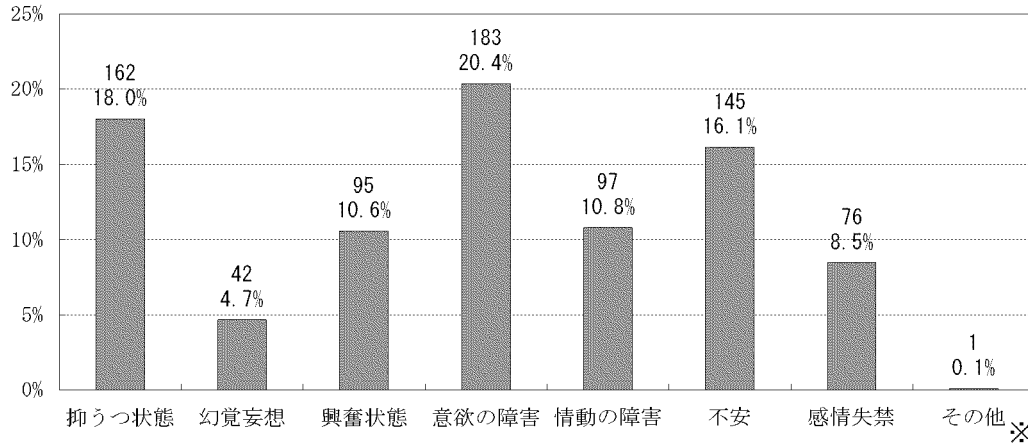


※複数回答

③行動と感情の障害

行動と感情の障害の内容として、意欲の障害が183人（20.4%）で一番多く、次いで抑うつ状態が162人（18.0%）であった。

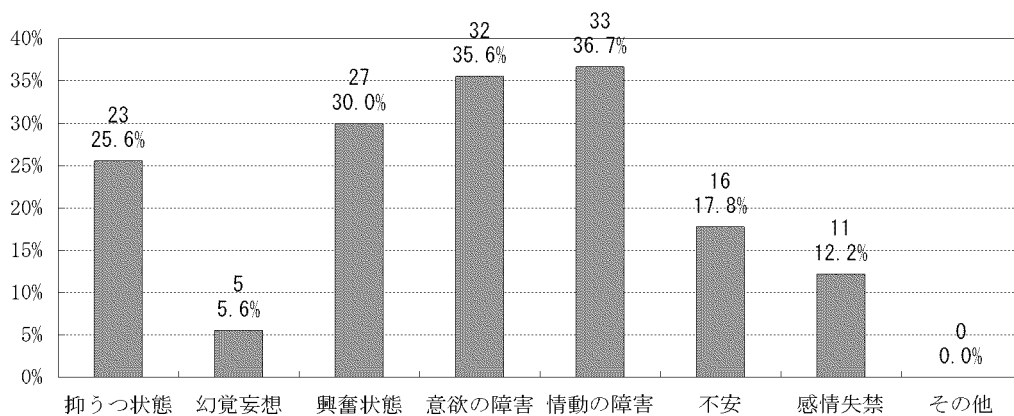
n=899



※複数回答

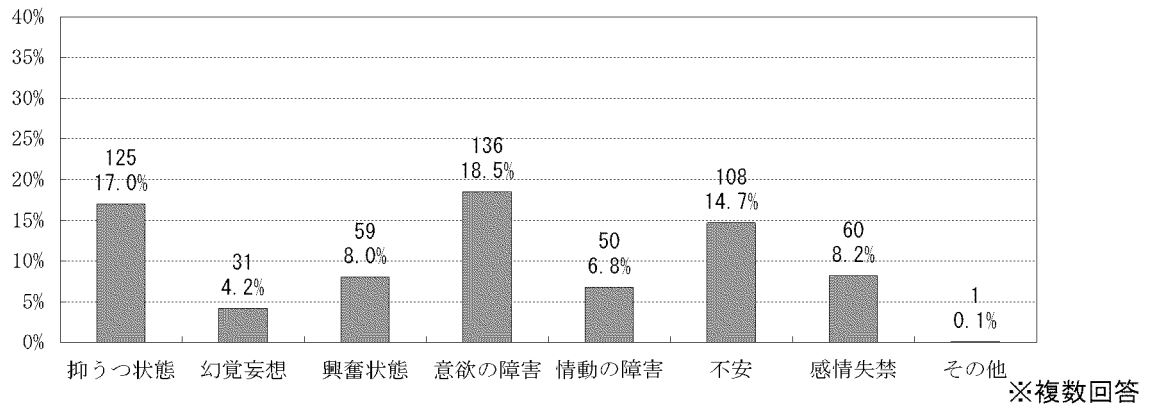
また、原因疾患別にみると脳外傷では情動の障害、次いで意欲の障害、脳血管障害では意欲の障害、次いで抑うつ状態、その他疾患では不安、次いで抑うつ状態が多かった。

a. 脳外傷 n=90

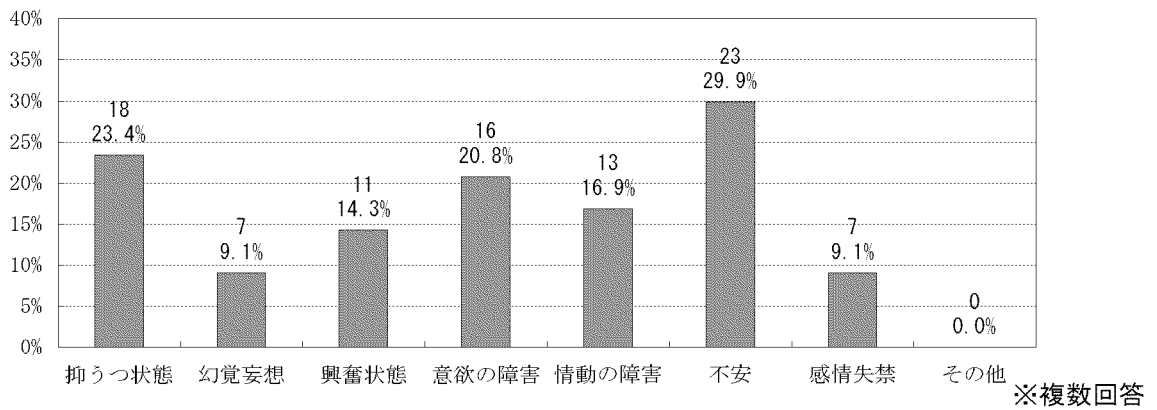


※複数回答

b. 脳血管障害 n=734

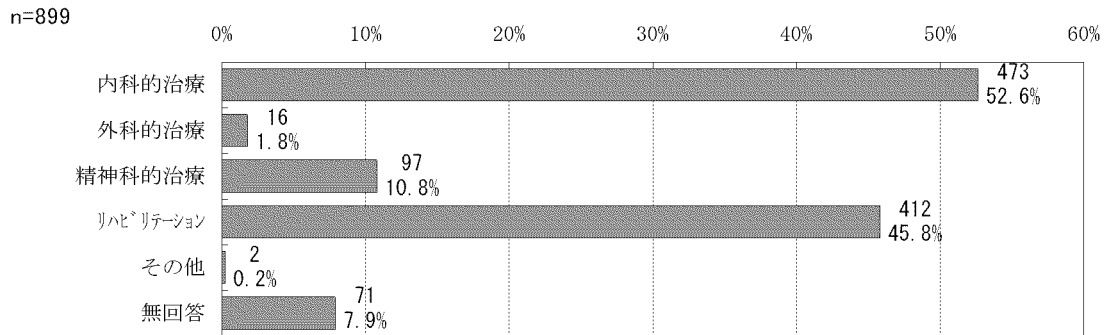


c. その他の疾患 n=77



8) 通院中の治療 問11

通院中の治療は、内科的治療が473人（52.6%）で一番多く、次いでリハビリテーションが412人（45.8%）であった。



※複数回答